

令和7年度使用中学校教科用図書
調査研究結果報告書

理 科



京築教育事務所管内教科用図書調査研究協議会

中 学 校 教 科 書 一 覧

教科書種目	理 科
-------	-----

発行者名	番号	略称	教科書名(シリーズ)
東京書籍(株)	2	東 書	新編 新しい科学
大日本図書(株)	4	大日本	理科の世界
学校図書(株)	11	学 図	中学校 科学
教育出版(株)	17	教 出	自然の探究 中学理科
(株)新興出版社啓林館	61	啓林館	未来へひろがるサイエンス

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
理科	2	東書	新編 新しい科学

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	○ 学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取扱い」に示された事項の全てについて不足なくとり上げ、エネルギー、粒子、生命、地球の4概念に沿って単元を構成している。また、季節的な学習の適期に配慮し、身近な自然をとり上げながら、学習をすすめることができるようになっている。
	2 内容に関する配慮事項	○ イラストの登場人物が吹き出しで発問をし、疑問に思ったことをつぶやくようなイラストが多く掲載されており、生徒の興味・関心を喚起したり、科学的な思考を促したりすることができるように工夫されている。 ○ 各単元に「じっくり探究」を設定し、生徒どうしの対話の具体例や「科学の見方・考え方」を示すことで、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように配慮されている。
	3 分量	○ 各学年とも、総授業時数の9割程度で指導できるように時数配分がされており、指導計画上無理なく、ゆとりをもって学習を進められるように編集されている。
	4 使用上の便宜	○ 観察や実験の説明において、視線の移動が少なく、上から下へ自然に流れるように手順をレイアウトすることで、注意事項などを確認しやすくするとともに、スムーズに活動に移ることができるように工夫されている。 ○ AB判を使用することで、写真やイラストが大きく載せられ、内容が伝わりやすくなっていると同時に、QRコードを読み取ることで、「章末問題」や「資料動画」などのコンテンツを容易に参照できるように工夫されている。
	5 印刷・製本等	○ 本文、図、注釈などの書体等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。 ○ イラストよりも、実物の写真が多く、実感を伴った理解が進むように工夫されているとともに、写真の裏ページが透けて文字が読みにくくならないように、不透明度の高い紙が使用されている。
教科ごとの選定の観点		1 「問題発見 レッツ スタート!」「仮説 ?(課題)に対する自分の考えは?」「構想 調べ方を考えよう」「分析・解釈 考察しよう」「検討・改善 解決方法を考えよう」など、探究の過程に直結した活動を配置することにより、自然の事物・現象を科学的に探究することができるようになっている。 2 各単元や各章などの導入部で、身のまわりの事象について考える場面が多く設定されており、興味・関心を高め、生徒自身が主体的に取り組めるような構成になっている。 3 観察・実験においては、手順と結果が同一の見開きに配置されないようになっていると、生徒自らが規則性を見いだして理解できるように工夫されている。 4 各単元・各章の学習前と学習後に同じ問いかけ「Before & After」を設定することで、学ぶ意味や有用性が生徒自身の成長とともに実感できる構成となっている。

	5 第1分野については、物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察・実験などを通して、生徒が科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することができるよう、適切に工夫・配慮されている。 6 第2分野については、生命や地球に関する事物・現象についての観察・実験などを通して、生徒が科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することができるよう、適切に工夫・配慮されている。 7 エネルギー、粒子、生命、地球の4つの概念に沿って単元構成がなされており、季節的な学習の適期に配慮し、身近な自然をとり上げながら、学習をすすめることができるようになっている。また、「これまでに学んだこと」や「発展 高校（発展的な学習内容）」で、既習内容や上位学年・高等学校につながる内容をとり上げ、内容の一貫性がはかれるように工夫されている。 8 観察・実験のページには、「観察・実験の目的」「方法」「結果」「結果の見方」の流れが具体的に記載されており、科学的に探究する力と態度の育成が段階的に無理なく育成できるようになっている。 9 「私たちのSDGs」などのコラムで、自然との関わりなどについて意識が高められるようになっている。 10 QRコンテンツ「情報を活用して学習を進めよう」を使って、ICT機器を使用し、機器の使い方の基礎が身につけられるようになっている。また、インターネットで情報検索する際の上手な利用の方法なども紹介されている。 11 「月の位置と形の変化」を調べる実験では、継続的な観察が行えるように工夫されている。また、全国各地の動物園や水族館、博物館が紹介され、身近な地域にある施設を活用して学べるようになっている。 12 「社会につながる科学」では、科学が社会においてさまざまな職業で役に立っていることが紹介され、科学の有用性が表現されている。また「お仕事図鑑」では、さまざまな仕事と学習内容の関連付けが取り上げられている。 13 注意事項を「注意」という赤文字で示しており、事故防止に配慮されている。また、薬品については、巻末に注意が必要な薬品が一覧でわかるようになっている。
--	--

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
理科	4	大日本	理科の世界

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	○ 学習全体を通して、生徒の素朴な疑問を大切に、それを探究する過程で自然や科学の不思議さに触れる感動を味わい、豊かな情操や道徳心が育まれるように配慮されている。 ○ 学習指導要領に示された内容をもれなく扱うとともに、生徒自らが理科の見方・考え方はたらかせ、見通しをもって活動に取り組むことにより、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成できるように配慮している。
	2 内容に関する配慮事項	○ 単元の配列が、小学校との接続を重視したうえで、観察・実験のしやすい時期や学年によって理科室の使用が重ならないように等、工夫されている。このようにすることで、3年間の理科の学習が、無理なく円滑に進むように配慮されている。 ○ 写真やイラスト、わかりやすい丁寧な資料を掲載することで、生徒の興味・関心を高め、自然の事物・現象に意欲的に関わろうとする態度が育まれるようにしている。
	3 分量	○ 各学年とも配時数にゆとりをもたせており、その時間は「探究活動」や「まとめ問題」「単元末問題」等の補充や発展的な学習に取り組めるように工夫されている。
	4 使用上の便宜	○ 図や表の表現形式が統一されており、わかりやすくなっている。また、資料の表やデータ、写真などは学習内容に適したものが使用されている。 ○ 文章が読みやすく、簡潔な表現が使われており、また、重要な語句はゴシック体で示され、ふり仮名がふられているので誤読防止に配慮されている。 ○ 各単元の最後に「探究活動」が掲載されており、各単元の実験や観察、実習で得た知識等を用いて、最終的に生徒が主体的に課題を見つけて、探究できるように工夫されている。
	5 印刷・製本等	○ 全ページカラー印刷されており、紙質は上質かつ軽量なものが使用されている。また、表紙は丈夫で汚れにくいコーティングがされており、いつまでもきれいな状態で使用できるよう工夫されている。 ○ B5の見開きページで編集されており、持ち運びしやすいサイズで製本されている。また、製本はアジロ綴じが使用され、長期の使用に耐えられる堅牢なものとなっている。
教科ごとの選定の観点		1 身近なことから問題を見つけ、課題を見出せるような構成となっており、自然の事物・現象と関連づけながら科学的に探究を進められるようになっている。また、科学的に探究する指針として、「理科の学習の進め方」を掲載することで、理科の見方・考え方の例示となるよう工夫している。 2 基本操作については、図や写真で手順がわかりやすく示されており、器具によっては、操作方法がわかる動画コンテンツに2次元コードを使ってアクセスできるようになっている。 3 見通しをもって観察・実験ができるように「目的」や「着眼点」が明示

	され、「結果の整理」や「結果から考えよう」で考察・振り返りをすることができ、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する、基本的な技能を身につけることができる内容になっている。 4 魅力的・印象的な写真やイラストを多用することで、生徒の興味・関心を惹きつけ、学ぶ意欲が高まり、自然の事物・現象に主体的に関わろうとする態度が育まれるように配慮されている。 5 物質やエネルギーに関する事象において、学んだことを活用し、自ら課題を見つけ探究する場面を設定することで、規則性を見いだすことができるように配慮されている。 6 生命や地球に関する事象において、学んだことを活用し、自ら課題を見つけ探究する場面を設定することで、規則性を見いだすことができるように配慮されている。 7 「くらしの中の理科」や「Science Press」などで、科学や技術、ものづくり、芸術、数学の領域と横断的に連携した、学びをつなげる・広げる資料が掲載されており、実生活に結びつく内容を自ら考えることで、新しい発見や課題に向かうことができるように配慮されている。 8 観察・実験は、課題に沿った内容となっており、所定の時間内にできるように配慮されている。また、観察・実験のほかに「やってみよう」を示し、興味・関心や理解の程度に応じて取り組める内容を設定することで、個々の生徒の学力がより深まるように配慮されている。 9 各学年の表紙には持続可能な社会をイメージしたテラリウムを掲載し、それぞれの学年の学習内容を環境と関連させて、持続可能な社会に対する意識を高めることができるように工夫されている。また、自然環境や資源に関わる内容には「環境」マークを表示することで、自然環境の保全に寄与する態度を育む配慮がなされている。 10 PCやタブレットなどのICT機器の活用を通して、情報の活用・処理能力が育まれるように配慮されている。また、学習活動を通して、ICT機器やインターネットを利用する上で必要な、情報モラルに留意する態度を育むようになっている。 11 各学年の巻末に「行ってみよう！科学館・博物館」、1年の巻末に「ジオパークを見学してみよう」、1・2年の巻末に「生物を見に行こう！」を掲載することで、校外施設などと学習の連携を図ることができるように配慮されている。 12 巻頭や「Professional」において、理科やSTEAMに関連した職業を取り上げることで、生徒が将来に向けての職業観や、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく能力が育まれるように配慮されている。 13 各学年の巻末に、その学年で使用する薬品を取り扱う上での注意が示されており、観察・実験では安全や環境への配慮を十分に検討している。また、環境負荷の少ないマイクロスケール実験の手法を採用している。
--	---

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
理科	1 1	学図	中学校 科学

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	○ 学習指導要領に示す事項を不足なく取り上げており、科学的に探究する方法について丁寧に説明し、多様な活動が準備されている。また、資料性が高い写真や図が随所に掲載されており、生徒が学習意欲を高め主体的な学習を行うことができるよう配慮されている。
	2 内容に関する配慮事項	○ 単元のはじめに「Can-Do List」が設定されており、資質・能力の3観点である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力」について、それぞれ「できるようになりたい目標」を明示することで、見通しをもった学習を進めることができるように配慮されている。 ○ 探究活動において、「気づき」「課題」「仮説」「計画」が明確に記載されており、探究の過程がわかりやすくされている。また、「結果」「考察」のポイントが文字で記載されており、「何を調べたら良いのか、何を考えたら良いのか」等、生徒が目的意識をもって観察・実験に取り組むことができるように配慮されている。
	3 分量	○ 各学年とも配時数にゆとりをもたせており、「探究活動」や「まとめ問題」「単元末問題」に取り組めるように工夫されており、余裕をもって学習できるように配慮されている。
	4 使用上の便宜	○ 単元の最初に「振り返ろう・つなげよう」という項目があり、小学校から習ってきたことが明確に分かるようになっている。 ○ 複数の単元にデジタルコンテンツが用意されており、該当する箇所にQRコードが示されている。 ○ 観察・実験等の際の安全に関して注意を促す場面には、「注意!!」マークで示され、注意する観点が示された文章が統一された色枠で囲んで示されている。
	5 印刷・製本等	○ 見やすさと読みやすさを考慮して、A B判サイズで構成されており、書体や色使い、レイアウト等にもユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。また、印刷にあたっては、図や表、グラフ、写真がはっきり見やすくレイアウトされており、生徒の興味・関心を高めるように工夫されている。
教科ごとの選定の観点		1 観察・実験での「気づき」「課題設定」「仮説」「検証計画」「観察・実験」「結果」「考察」などの過程を一連のラインと矢印で表示することで、課題に沿って見通しをもった観察・実験を行うことができるように工夫されている。 2 単元の最後に「学習のまとめ」が設定されるなど、基本的な知識の確認や観察・実験の基本的な技能が丁寧に示され、知識や技能が確実に定着できるような構成となっている。 3 冒頭に探究の進め方が記載されており、また、話し合いを重視した学習活動が多数設定されており、結果を整理して分析・解釈したり、表現したりする力が育成されるように構成されている。 4 身近な生活の中で科学的な探究がどのように役に立つか、マンガ形式で

	わかりやすく解説されているなど、探究意欲を高め、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 5 第1分野において、資質・能力の3観点を明示しており、この分野でどのような力を身につけるのか、「Can-Do List」がはっきり示されていることで、見通しをもって自ら学習を進められるようにしている。 6 第2分野において、資質・能力の3観点を明示しており、この分野でどのような力を身につけるのか、「Can-Do List」がはっきり示されていることで、見通しをもって自ら学習を進められるようにしている。 7 キャラクターの吹き出しや「つながり・数学」などのマークによって、他教科との関連が確認できるように配慮されている。 8 各単元に設定されている「探究」で、さまざまな仮説を検証するための「計画」や、実験結果を分析・解釈する「結果から考察する」などの場面が設けられており、科学的に探究する力と態度の育成が段階的に無理なく育成できるように構成されている。 9 単元はじめの「Can-Do List」や本文中で、生物や自然を大切にすることが促されるように構成されており、生命の尊重と環境保全の態度を育むことができるように配慮されている。 10 観察や実験において、器具の使い方などを教科書右上に表示しているQRコードをタブレット等で読み込むことで、動画で確認できるように工夫されている。 11 2学年の「気象」や3学年の「天文」の単位では、「継続観測」と明示された課題が設定されており、計画的な観察・観測を粘り強く行う姿勢を育成できるように配慮がなされている。 12 「学習内容と仕事」などで、職業を通じて科学を学ぶ意義や有用性を理解し、意欲的に学習を進めることができるように配慮されている。 13 注意事項を「注意」という文字とともに具体的に記述しており、事故防止に配慮されている。また、廃液の処理など、環境面への配慮を喚起するための注意事項が示されている。
--	---

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
理科	1 7	教出	自然の探究 中学理科

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	○ 学習指導要領に示す事項を不足なく取り上げており、観察・実験においては、目的意識をもって課題にとりくめるように、「課題」「準備」「方法」「結果」「考察」を行い、まとめにおいても科学的な思考力・表現力を育むようになっている。 ○ 単元ごとに「要点と重要用語の整理」や「基本問題」があり、基礎・基本の定着を図ることができるようになっている。
	2 内容に関する配慮事項	○ 各単元末に重要語の整理や、基本問題、活用問題が掲載されており、それぞれの単元で、基礎的・基本的な知識や技能を習得できるように配慮されている。 ○ 実験・観察において、「目的」が明確であり、「準備物」「方法」「結果」「考察」が記載されており、探究の過程がわかりやすく表記されている。また、探究の進め方も記載されている。さらに、実験の流れがワークシート形式でわかりやすく表示されている。
	3 分量	○ 探究活動が多く設定されており、ゆとりをもって探究的な学習が進められるように、各学年とも所定の年間配当時数の9割程度で指導できる内容で構成されている。
	4 使用上の便宜	○ 観察・実験では、手順を縦1列に配置して矢印のラインをつけ、手順の文とイラストが対応するように工夫されている。 ○ QRコードを読み取ることで、「生物カード」や「粒子モデル」など関連画像や資料を容易に読み取る事ができるように工夫されている。 ○ 単元の最後に「学習のまとめ」というページがあり、単元で学んだ内容について整理できるように配慮されている。
	5 印刷・製本等	○ AB版を採用し、学習すべき内容や活動を削減することなく、総ページ数と重量を大きく軽減することで、持ち運びやすくなるように配慮している。 ○ 文字の大きさを学年に応じて変えており、ほぼすべての書体にUDフォントが取り入れられている。また、カラーユニバーサルデザインに配慮し、どの色覚特性でも判別ができるように配慮されている。
教科ごとの選定の観点		1 各学年の巻頭に「探究の進め方」をわかりやすく表現するとともに、単元内にも同様の表現を用いて「疑問を見つける」「課題を決める」「仮説を立てる」「計画を立てる」「観察する・実験する」「考察する」「結論を示す」の順で展開することで、生徒が見通しを持って学習を進めることができるように配慮されている。 2 観察や実験の方法の説明では、基本的な器具や機器の使い方がイラストとともにわかりやすく説明されており、観察・実験において目的に応じた器具や機器を使用して、基本的な技能が習得できるようになっている。 3 思考力、判断力、表現力等の育成のため、第1学年では、自然の事物・現象に進んで関わり、それらの中から問題を見出す活動、第2学年では、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動、第3学年で

	は、探究の過程を振り返る活動などに重点が置かれ、3年間を通じて科学的に探究する力の育成を図ることができるように配慮されている。 4 導入部で、生徒が実際に調べてみたくなる魅力ある事象や、2つの異なる事象を効果的に提示することで、生徒が自然に対して関心や調べる意欲を喚起することができるように工夫されている。 5 第1分野では、物質やエネルギーに関する事物・現象について科学的に探究を進める中で、観察・実験・観測・実習が適切に位置づけられていて、自然の事物・事象をよりよく理解できるように配慮されている。 6 第2分野では、生命や地球に関する事物・現象について科学的に探究を進める中で、観察・実験・観測・実習が適切に位置づけられている。特に、野外観察や継続観測を適切に位置づけるなど、自然の事物・事象への直接的な取り組みを通して、よりよく理解できるように配慮されている。 7 「これまでの学習」を示すことで小学校と中学校の内容の一貫性がはかれるようするなど、小学校や高等学校の学習内容との関係に留意されており、内容の理解や科学的な概念の形成、自然の事物・現象を科学的に探究する力や態度の育成がなされるように配慮されている。 8 「準備」「方法」「結果」「考察」の流れが確立しており、検証方法を話し、考えを深め合う学習場面や結果をもとに考察を行い、レポートの作成、発表、討論など知識および技能を活用するなどの学習場面が豊富に設けられている。 9 生物のつくりとはたらきの精妙さが認識できる実験・観察が多く掲載されており、生命に対する畏敬の念や生命を尊重する態度を培えるように配慮されている。また、科学読み物「ハローサイエンス」などで自然環境の保全に関わる話題を積極的に取り上げ、生徒の自然環境の保全に対する関心が高まるように配慮されている。 10 計測による定量化を行う実験については、読み取った数値を記録できる表が用意されているほか、「まなびリンク」コンテンツとしてグラフシートが用意されており、コンピュータを使用した観察・実験のデータ処理やグラフ作成などに対応できるように配慮されている。 11 各学年の巻末資料「郊外の施設を活用しよう」で、それぞれの地域にある博物館や科学学習センター、プラネタリウム、動物園などの施設の例を示したり、活用を促したりすることで、それらの施設の活用を学習に位置づけられるように配慮されている。また、学習の中で施設や専門家を活用している例が紹介されたり、博物館に実際に展示されている標本の例が紹介されたりすることで、学校外の施設や人材を学習に活かすように工夫されている。 12 日常生活や社会生活と関連の深い科学技術の成果物を、学習した原理や法則と関連させながら紹介しており、さまざまな原理や法則が科学技術を支えていること、それらが日常生活や社会に深く関わりを持っていることが認識できるようになっている。 13 気体が発生する実験には「室内換気」、薬品などが目に入る恐れのある実験には「保護眼鏡」、廃液が出る実験には「廃液処理」の3種類の指示のマークを付すことで、安全や環境への配慮が徹底されるようにしている。
--	---

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
理科	6 1	啓林館	未来へひろがるサイエンス

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	○ 学習指導要領に示す事項を不足なく取り上げており、どの単元、実験・観察でも、理科の見方・考え方ははたらかせて、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成できるようになっている。 ○ 基礎的・基本的な知識・技能が、確実に定着するように工夫されているとともに、発展的な学習内容やQRコンテンツが効果的に掲載され、個に応じた学習に対応している。
	2 内容に関する配慮事項	○ 「探Q実験」「探Qシート」で、対話を通して仮説を練り上げたり、条件をそろえて実験を計画したりする活動が設定されている。 ○ 「結果の書き方」、「考察の書き方」のポイントが明確に記載されており、生徒が何についてどのように書けば良いかがわかりやすくなっている。 ○ 単元の最後の「学んだ後にリトライ」で、単元を学ぶ前と後で自身の考えがどのように変わったかを振り返ることができるようになっている。
	3 分量	○ 探究活動が多くあり、学習指導要領の内容・取り扱いに基づき、配当時間数は余裕をもって指導できるように配慮されている。 ○ 観察・実験は、「生徒観察・実験」、「ためしてみよう」、「図示実験」の3段階に設定されており、柔軟な指導に対応できるように配慮されている。
	4 使用上の便宜	○ 生徒観察・実験は、「目的」「方法」「結果」「考察」の過程が1本のラインで示され、見通しをもって観察・実験を行えるように配慮されている。 ○ 図や写真を紙面上部に集めており、視覚的に対象物が認知できるように工夫されている。 ○ QRコードを読み取ることで、「振り返りシート」や「解説動画」など、関連画像や資料を容易に読み取る事ができるように工夫されている。
	5 印刷・製本等	○ 1年の文字サイズは、小学校理科6年と中学校理科2・3年の中間サイズに設定されており、生徒が小学校の教科書から中学校の教科書にスムーズに移行できるように配慮されている。 ○ 教科書はAB版サイズが採用され、広げやすく書き込みがしやすい「あじろ綴じ」製本が採用されているため、紙面をより大きく有効に活用でき、見やすさと読みやすさ、学習意欲の向上に配慮されている。
教科ごとの選定の観点		1 「学習の導入」「学習課題」「計画・予想」「観察・実験」「結果」「考察」「まとめ」の流れを意識した教科書編成になっており、科学的に探究できるような活動が多く記載されている。 2 実験観察の技能について、丁寧に示されており、QRコードから映像教材が視聴できるようになっている。また、単元の最後には、「学習のまとめ」が設定されており、基礎的・基本的な技能の定着と確認を行うことができるように配慮されている。 3 生徒観察・実験には「探究のふり返し」が設定されており、仮説や計画の妥当性を吟味したり、新たな課題を探したりして、深い学びにつながるように工夫されている。

	4 学習のまとまりが「章導入→節スタイル→学習課題→計画や予想などの活動→観察・実験→結果の考察→まとめ」と構成されており、教科書全体を通じて探究的な学習を繰り返すことで、主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されている。 5 第1分野の物質やエネルギーに関する事物・現象についての内容区分に照らし、科学的に探究を進めるために必要な資質・能力を育成するための内容が適切に取り上げられている。 6 第2分野の命や地球に関する事物・現象についての内容区分に照らし、科学的に探究を進めるために必要な資質・能力を育成するための内容が適切に取り上げられている。 7 学習を進める上で、どの単元から学習をはじめても支障がないように構成されている。また、同一学年の別の単元でも登場する用語が相互に参照できるように工夫されている。 8 観察・実験は、授業で取り組む「生徒観察・実験」、演示実験や代替実験として活用できる「ためしてみよう」、「図示実験」の3段階に設定されており、柔軟な指導に対応できるように配慮されている。 9 多くの動植物や自然環境が紹介されており、自然の共通性・多様性と豊かさに目を向けられるようになっている。また、持続可能な社会への意識が高まるように「SDGsマーク」を各所に表記しており、全学年の巻末では「地域・環境資料集 SDGs 目標達成への取り組み」をとり上げている。 10 全学年で提示されている「ICTでトライ」において、タブレットやPC、データロガーなどのICT機器の活用が有効な場面・方法が表示されており、画面上で操作して実験・実習を行うQRコンテンツも準備されている。 11 全学年に継続的な観察・観測が設定されており、計画的な観察・観測を粘り強く行う姿勢を育てる配慮がなされている。また、科学館や博物館などの地域施設が、学習内容に関連した適所で紹介されている。 12 節末に設定されている種々の科学コラム、生徒の学校生活に直結する「部活ラボ」や、キャリア教育につながる「仕事ラボ」、食育につながる「お料理ラボ」、防災・減災の意識を高める「防災減災ラボ」、学んだ内容の広がりや深まりが実感できる「深めるラボ」を掲載することで、生徒の学習意欲を高め、理科を学ぶ有用性を実感することができるよう配慮されている。 13 観察・実験の素材は入手しやすいものが選ばれ、器具は安全かつ確実に観察・実験を進めることができる一般的なものが使用されている。また、薬品や廃液が少ない環境に配慮された実験法には「環境マーク」がつけられている。
--	---